

俳句部分は  
やや大きめに

ひょうは小娘にて名をかきねと云。聞き

なれぬ名のききかければ、曾良

かきねは八重撫子の名成るべし

一般

段級

【奥の細道】

一人は小さい女の子で、名前をかきねという。聞きなれない名前が優美に聞こえたので「かきね」というのは（花で言うならば）八重撫子の名といったところであろう 曾良

